

奔る流れ

(令和元年第百十一回記念祭歌)

樋浦一希君 作歌
伊藤小雪君 作曲

一

曇天低く晴緑の山
高くみあげて岩打つ波間
静寂の底に力を秘して
揺れては消える蒼銀の魚影
未蕾は満ちて華ならん

二

急滝高く紅の木々
散る葉をうけて渦まぐ白泡
一瞬ここに己を賭して
白銀に煌めけ緋赤の川面
祭りは咽く華たれや

三

月影長く原始林を貫き
街影映す学舎の流れ
刹那輝き我今生きて
札幌に舞う川辺の銀鱗
咲くは次代の華なれや